

1-1 広域的な位置付け

1 高岡市の位置

高岡市は、富山県西部に位置し、東に位置する県都富山市に次ぐ県内第2の都市であり、東京、大阪、名古屋といった3大都市圏からはほぼ等距離に位置し、JR北陸本線や北陸自動車道等によるアクセスが確保されている。

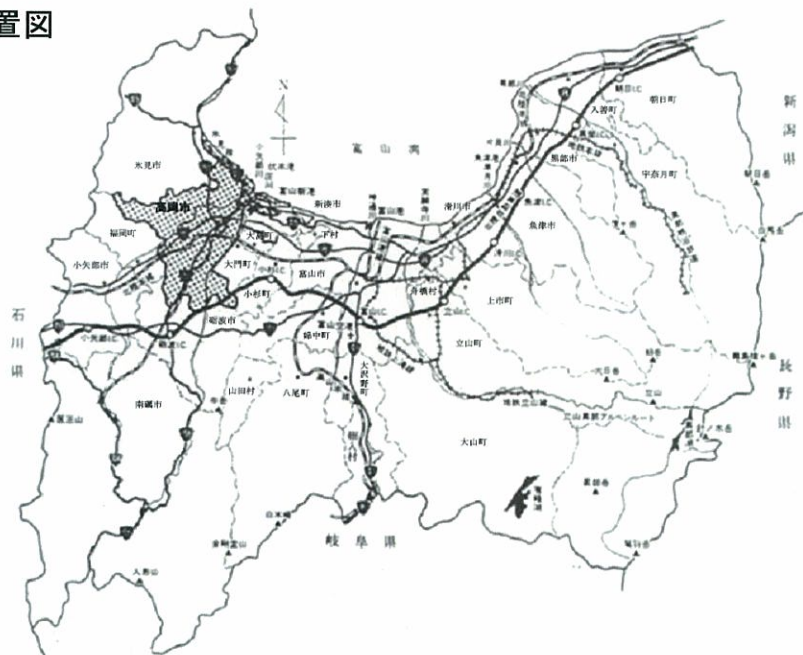
今後、能越自動車道や東海北陸自動車道、北陸新幹線の整備が進むことから、大都市圏との交流がさらに密接になるものと考えられる。

また、特定重要港湾に指定されている伏木富山港は、日本海側の対岸諸国との定期航路が開設されるなど、国際交流において重要な役割を担うと考えられている。

このように、高岡市は、陸上の高速交通網の整備とともに海上ルートの充実などにより、交通利便性に恵まれた立地条件を有することとなる。

高岡市の位置

位置図



2 高岡市の広域的な位置付け

高岡市には、中心市街地の周辺に伏木、戸出、中田、牧野、西高岡地区などの飛び市街地があり、国道8号や国道156号などによりそれぞれが連絡されている。

また、北陸新幹線や北陸自動車道、能越自動車道、東海北陸自動車道、伏木外港等により、高岡市と石川、新潟、東京、大阪、愛知方面や環日本海方面と連絡しており、広域連携の強化と交流の都市づくりによる富山県西部の中心都市としての役割が期待されている。

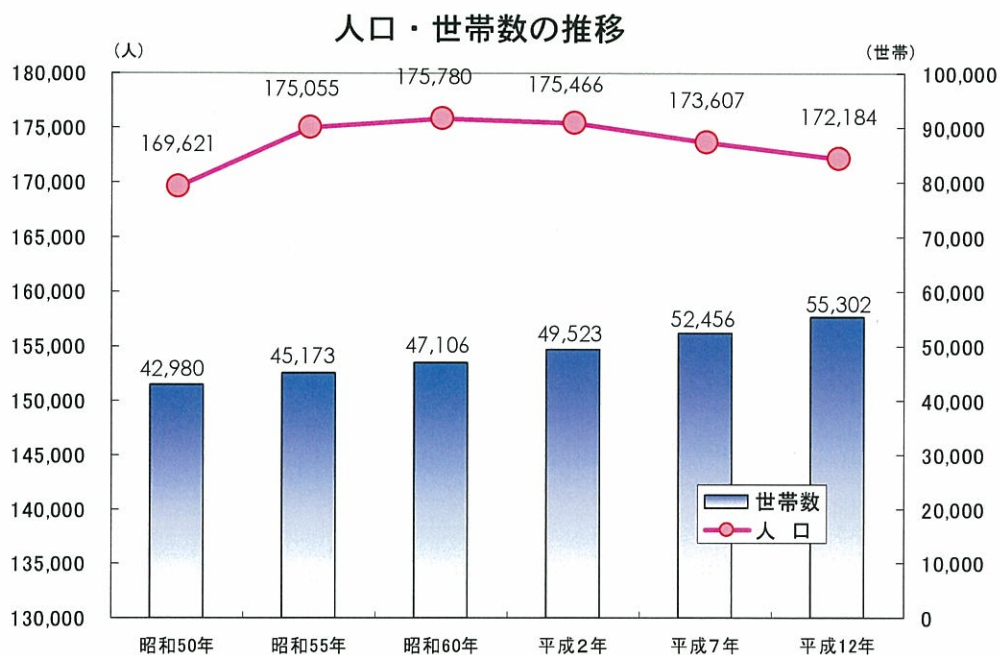
1 人口・世帯数

(1) 人口・世帯数の推移

本市の人口は昭和50年代から増加傾向を示しており、昭和60年(1985年)には175,780人となったが、これをピークに減少傾向に転じ、平成12年では172,184人であり、近年は5年間で1,500人程度減少している。その一方で核家族化の影響もあり、世帯数は増加傾向にある。

世帯数は、55,302世帯(H12国調)で一貫して増加している。世帯人員については、3.95人/世帯(S50)から3.11人/世帯(H12)と減少しており、核家族化の進行がうかがえる。

人口減少傾向は今後も続くものと予想され、高岡市総合計画では平成22年の人口を171,500人と推計している。



(資料：国勢調査)

(1) 土地利用現況等

本市の土地利用現況を平成 11 年都市計画基礎調査の結果で見ると、市域全体の構成は宅地や道路などの都市的土地利用、田畑の農業的土地利用、山林などの自然的土地利用がそれぞれ3分の1ずつとなっている。

本市の市街地は、市制施行当時の市域を中心とする高岡市街地、伏木港を中心とする伏木市街地、また、戸出・中田・牧野・西高岡の飛市街地から構成される。

住宅地は商業地を取り巻く形で拡がるが、中心市街地では店舗や中小零細工場等が混在する木造密集地域が多い。

一方、周辺市街地では、土地区画整理事業や民間開発などによる住宅地造成が進展している。

また、伏木市街地は海側の既成市街地と、山手側の新市街地の2つに分けられ、既成市街地は木造密集地、山手側の新市街地は団地開発等により、緑の多い戸建住宅地となっている。

工業地は、伏木港周辺から小矢部川沿岸にかけての地域、中心市街地西側から小矢部川右岸にかけての地域に拡がるが、一部には、工場の転出に伴う未利用地もみられる。また、戸出、中田及び小矢部川左岸には、工業団地が形成されている。

一方、中心市街地西側には、伝統産業である銅器や漆器等の中小工場と住宅等が混在する地区が拡がる。

商業地は、JR高岡駅を中心とする中心商業地及び伏木に形成され、戸出、中田、立野においても近隣商業地が形成されている。

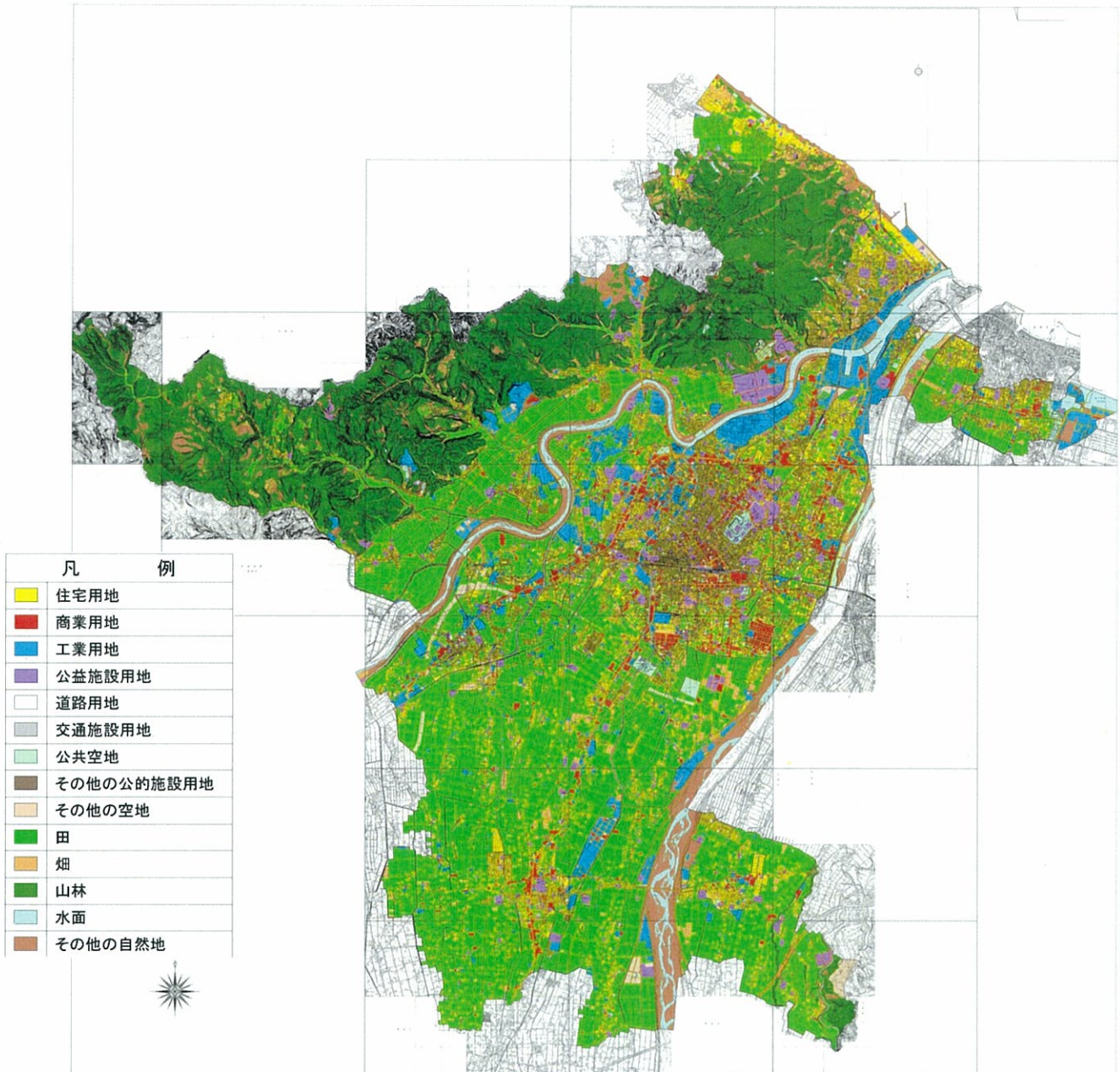
さらに国道8号、国道156号などの幹線道路沿いに、沿道サービスの商業施設の立地がみられる。一方、中心商業地については、空店舗や空地などが増加している。

土地利用別面積表

	自然的土地利用				農業的土地利用			都市的土地利用								合計	
	山林	水面	その他	小計	田	畑	小計	宅地			公共 公益 施設 用地	道路 用地	交通 施設 用地	その他	小計		
								住宅地	商業地	工業地							
市街化区域	44	49	85	178	366	112	478	1,053	273	490	1,816	328	523	47	151	2,865	3,521
市街化調整区域	3,260	428	980	4,668	4,238	370	4,608	794	77	333	1,204	239	717	19	79	2,258	11,534
合計	3,304	477	1,065	4,846	4,604	482	5,086	1,847	350	823	3,020	567	1,240	66	230	5,123	15,055

(資料：平成11年度都市計画基礎調査)

土地利用現況図



(資料：平成11年度都市計画基礎調査)

1 交通施設

(1) 道 路

本市の道路網は、市域を東西に横断する国道 8 号、南北に縦断する国道 156 号と国道 160 号、及び主要地方道などを骨格に、一般県道や幹線市道などで構成されている。

自動車専用道路としては、市域西側を南北に縦断する能越自動車道の建設が進められており、市内に高岡 I C 及び高岡北 I C の 2 ヶ所の I C が設置されている。

市内では、国道 4 路線、主要地方道 13 路線、一般県道 21 路線があり、交通量の多い路線では、4 車線化やバイパス化が進められているほか、都市計画道路が、63 路線、延長約 157 km 計画されている。

整備状況をみると、周辺市街地の整備が進んでいるものの、中心市街地で未着手の路線が多い。また、本市の骨格を成す環状放射道路が未整備であるとともに、河川断面、鉄道断面がボトルネックとなっており、交通渋滞が発生している。

地域高規格道路としては、能越自動車道高岡 I C へのアクセス道路として高岡環状道路が指定されており、市街地南部の約 5.2km を整備区間として事業着手している。

(2) 鉄道・港湾等

本市の公共交通は、北陸本線、城端線、氷見線の J R 3 線、路面電車万葉線、6 2 路線の路線バスが運行している。(H16.3 現在)

しかし、高岡市を含む富山高岡広域都市圏においては、交通手段別トリップ構成比における自動車の割合が年々高まり、全国においても非常に高い数値となっており、公共交通機関の利用者数も減少傾向にある。

富山湾に面した市の北部には、特定重要港湾伏木富山港があり、高岡市の海の玄関口となっている。

2 公園・緑地

本市の都市公園数及び面積は、229箇所、約142ha（H16.3現在）であり、住民1人当りの都市公園面積は8.31㎡で、県平均13.1㎡を下回る。

本市における総合公園や運動公園など都市基幹公園は、4箇所約333ha計画されており、うち、4箇所約67haが供用されている。

住区基幹公園については、近隣公園及び地区公園が殆どなく、また、街区公園は、都市計画公園以外は小規模なものが多い。特に、中心市街地での公園面積が少なく、公園の配置に偏りがみられる。

3 下水道

下水道については、高岡処理区、伏木処理区、流域下水道として小矢部川処理区及び神通川左岸処理区、特定環境保全公共下水道として太田処理区の5つの処理区がある。

現在、処理区域内人口は140,976人、行政区域人口(170,343人)に対する普及率は82.8%であり、県平均を上回る。(H16.3現在)

水洗化人口は122,818人で、処理区域内人口に対する水洗化率は87.1%(H16.3現在)となっている。

現在、すべての処理区で供用開始しており、下水道整備計画では、5処理区で計画面積4,552haの整備を予定している。

4 市街地整備

高岡市では、市街地整備として、土地区画整理事業(28箇所、458.4ha)が行われており、そのうち14箇所が都市計画決定されている。また、中心市街地においては、市街地再開発事業が4箇所行われた。

JR高岡駅を中心とする中心市街地は本市の中心商業・業務地であり、市街地再開発事業や土地区画整理事業等により、商業業務機能や都心居住機能の拡充、文化・交流機能や情報機能など高次都市機能の集積が進められているが、郊外型店舗の立地進展や空店舗の増加、歩行者通行量の減少等都市機能の分散化や相対的な機能低下等により、中心市街地では空洞化が深刻な状況にある。

周辺市街地や新市街地では、土地区画整理事業や民間開発などにより住宅地整備が進展しているが、まとまった規模の農地など未利用地が残るなどスプロール化が進行している地区がある。都市施設では、環状道路網を形成する幹線道路の整備が進められているが、補助幹線道路、街区公園等の身近な施設の整備が遅れている。